

## 和歌山県立博物館評価(令和元年度事業評価用)

博物館長による評価	<p>微増傾向にあった入館者数であったが、昨年度末からコロナウイルスの影響を受けたのは打撃であった。しかしその状態でも、危険のないよう配慮しつつ展覧会活動を継続させるのが全国の博物館にとっての課題である。徳川家入国400年記念の特別展を市立博物館と共同開催したことは、新たな開催形態を探るものとして評価できる。各学芸員の担当範囲はかなり広く、人員の補充により遅れている分野(たとえば考古)をカバーする必要がある。将来的には学芸庶務のポストも考えに入れるべきだろう。自然災害や文化財盗難などに対する施策は、地域住民の生活とともに歩む博物館活動の模範として他府県をリードしており、この取り組みを継続されたい。緊急避難時の対応を含めた博物館の収蔵能力につき考える時期に来ている。展覧会のPRのために、メディアをさらに活用する方策を検討することが望まれる。</p>
評価部会による評価	<p>博物館として行うべき活動はほぼ妥当に実行されているが、観光振興への対応に留意しつつ、着実な事業実施のため必要な中・長期計画を策定し、優先順位を付けながら実現に向かって進むべきである。とくに、新館開館後25年を経過しているので、設備面や常設展を中心とした展示のあり方について、更新をはかる時期にさしかかっていることに留意することが必要である。</p>

# 令和元年度 和歌山県立博物館評価様式

## 1. 資料収集・管理

博物館長による所見	資料収集は購入・寄託とも順調に行われている。収集方針に特段問題はないが、収蔵品のコンディションチェックを常に行い、有効活用の可能性の低いものを選別し、収蔵庫は一定の残存率を常に確保しておくことが望ましい。資料の活用については、当館での展示や他館への貸し出しなど積極的に行われている。
評価部会による所見	収蔵庫の限られた容量を考慮すると、資料の収集は文化財保護と活用のバランスをふまえて行うべきである。なお資料購入については、年間予算額を超える重要資料の購入を実現するための仕組み作りが求められる。また、館蔵品については全件のデジタル画像データの整備を行い、公開活用ができるようになることをめざす必要がある。

### ①資料収集

#### A. 資料収集方針に沿った資料の収集が行われたか。収集手続きは適正か。(1)

令和元年度目標	収蔵庫前室・搬出入室を想定した大規模受託のシミュレーションを検討する。
自己評価	現時点では、災害時に対応可能であるのは、収蔵庫前室と搬出入室・荷解室を想定している。資料の収集(購入・受贈・寄託)については、資料収集方針に基づき、所定の手続きにより行っている。
課題・改善案	資料の収集は継続するが、その必要性・目的について、より厳格に検討することが求められる。

#### B. 新規購入・受贈・受託数は何件・何点か。(2)

令和元年度目標	活用することのない寄託資料について、所有者への返却も含めて、取扱いを検討する。
自己評価	新規購入資料は10件81点、受贈資料は8件153点、寄託資料は54件76点。寄託資料のうち、4件4点を返却し、1件3点を購入し、2件2点を受贈した。
課題・改善案	個人所有の寄託資料のうち、活用の可能性が低いものを選別し、寄託更新の時期など、機会を見て返却の可能性について協議する必要がある。

### ②資料保存

#### A. 資料の保存環境は適切か。資料の点検調査を行ったか。(3)

令和元年度目標	寄託更新のため、寄託品の在庫チェックを行う。収蔵庫別に、残り収蔵容量の把握を行うとともに、棚・棚板増設のための基礎的情報を整備する。
自己評価	寄託更新作業に伴う調査では、収蔵棚の約90%が使用中であることが判明している。
課題・改善案	収蔵棚の増設可能な部分について仮見積を取るなどして、収蔵容量増加のための基礎的データを集めておく必要がある。

#### B. 資料の修復を行ったか。その手法は適切だったか。(4)

令和元年度目標	館蔵品を中心に、修理計画を策定するための、コンディションチェックや修理歴の整理を順次進める。
自己評価	館蔵品の修復は9件12点。
課題・改善案	単年度だけでなく、中長期の修理計画を立てて、計画的に実施する。

### ③資料管理

#### A. 収蔵点数は何件・何点か。資料の管理方法(台帳、データベース)は適切か。(5)

令和元年度目標	収蔵資料全体の件数・点数を把握し、年度末に集計する。預かり証書の更新準備作業(在庫調査)を行う。館蔵品・寄託品データベースの整序を行う。
自己評価	館蔵品1,118件24,074点、寄託品2,613件15,641点。館蔵品・寄託品の在庫調査を行った。
課題・改善案	現状、使用しているソフトウェアをはじめ、異なる点が多い寄託品データベースと館蔵品データベースとの規格の統合をはかる。画像データとのリンクも充実すべきである。

### ④資料の活用

#### A. 他機関へ資料を貸出ししているか。(6)

令和元年度目標	貸出基準の要件を検討・整理し、ホームページ上で公開する。
自己評価	貸出件数は28件87点。貸出基準の概要は運用上存在するが、明文化するに至っていない。
課題・改善案	貸出基準の明文化・ウェブ上での公開を急いで行う。

B. 図書資料を収集し、研究や閲覧に供しているか。(7)

令和元年度目標	図書データの入力・配架・公開作業を効率的に行えるように、作業の工程を検討する。
自己評価	入力作業は、開館時間外や入館者が少ない時間帯に、受付・監視職員により効率的に行った。
課題・改善案	一般に普及していない展覧会図録・逐次刊行物の所蔵リストについて、ウェブ上などで公開することを検討する。

C. 資料のデータを公開しているか。(8)

令和元年度目標	ホームページ上で、画像を含む館藏品リストが公開できるよう準備作業を進める。
自己評価	名称・員数などのテキストのリストは、最新のものまで公開している。画像データは、全体の6割程度は整備されている。
課題・改善案	サイズ・解像度等を検討の上、画像にリンクできるものを、部分的であっても公開する。

2. 調査・研究

博物館長による所見	学芸員各位の調査・研究は顕著な成果を上げている。その成果を反映させた展覧会についてはその旨を広報するのが望ましい。科学研究費による調査・研究が実現したなら、その成果を積極的に展覧会に活用するべきで、さらに学術雑誌や学会発表なども考えられよう。将来予想される災害や頻発する盗難事故に備えた調査研究が継続的に行われているのは他県の博物館の手本となっており、大きく評価できる。
評価部会による所見	学芸員の個々の専門的研究は、展示や普及活動などに反映されており、成果を十分に上げているが、資料や作品研究の幅を広げて、一般の来館者にも還元できるような方向性が求められよう。また、この間の研究や技術の進展もふまえながら、常設展示のリニューアルを目標とした展示手法や展示構成に関する研究も行う必要がある。

①調査

A. 調査件数。使命に基づいた調査研究を行っているか。(9)

令和元年度目標	調査内容のデータ化・共有化のための作業サイクルの確立を行う。
自己評価	館外での調査件数は145件。調査時の画像データ等は、学芸課ネットワーク内のハードディスクに、一定のルールに従って保管されている。
課題・改善案	調査データのインデックス(年度別・主題別・場所地域別等)を整備する必要がある。

B. 外部機関・団体と共同した研究を行ったか。(10)

令和元年度目標	和歌山県ゆかりの文化財について、共同研究の一員としての活動を積極的に行う。緊急の事態については、臨機応変の対応ができるようにする。
自己評価	共同研究による調査は、6機関と延べ34回行った。
課題・改善案	館の活動に支障が生じない範囲で、共同研究に参加してその成果を蓄積する。

②研究成果の活用

A. 館の展示・教育普及活動等に成果が反映されているか。(11)

令和元年度目標	それぞれの活動を行うにあたって、その背景に研究活動があることを、広報の場などで積極的にアピール・強調する。
自己評価	一部の展覧会では、近年の調査の成果であることを示していたが、全体としては十分なアピールができていなかった。
課題・改善案	展覧会活動以外に、調査研究の成果を広く普及・広報する場の可能性について検討する必要がある。

B. 学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)がなされているか。(12)

令和元年度目標	館の事業として公表するだけでなく、他の媒体でも積極的に公表し、その実績を記録する。
自己評価	研究紀要(26号)は、予定通り刊行した。
課題・改善案	配布が必要な機関を再検討するとともに、PDF形式でウェブ上に公開することを検討する。

### 3. 展示

博物館長による所見	特別展・企画展は、県民の要望をよく反映している。レプリカやパネル展示は地域の歴史を語るものとしてどうしても必要だが、過多にならない程度が望ましい。徳川家入国400年を記念した特別展を市立博物館と合同開催したのは時宜に合うものであった。予算面の問題があるが、企画展で小冊子を発行することを考えてよいのではないか。南葵音楽文庫展は新しい展示の方向を探るという意味で有意義に思われた。
評価部会による所見	特別展・企画展は、やや展示資料数が多すぎるきらいがあるが、意欲的・啓発的な内容で高く評価できる。とくに、初めて市立博物館と合同して企画・開催した「徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝」は、戦略上の課題が残されたが、お互いに調査研究などを補完しながら、規模の大きな展覧会を開催できた点が特筆されよう。なお、内容によっては、企画展の図録・パンフレットの制作も、来館者サービス・記録保存などの観点から検討すべき課題である。

#### ①常設展

##### A. 展示更新回数。計画的な展示替が行われているか。計画的な保守・管理が行われているか。(13)

令和元年度目標	紙製・絹製の実物資料については、2回程度の展示替を行う。レプリカ・模型・パネル類の劣化状況を調査・データ化する。システム開発済みの携帯端末による音声・画像解説を試行する。
自己評価	考古資料以外の実物資料は1～2回の展示替えを行った。携帯端末による音声・画像解説は、一部方式を変更して、次年度当初の稼働に目途が立った。
課題・改善案	グラフィックパネル・模型のベース、壁面の塗装等にキズ・いたみが目立つようになっているので、仮見積を取って将来的な修繕に備える。

#### ②特別展・企画展

##### A. 展覧会のコンセプト・構成・展示手法は妥当か。展示物・来館者の安全は確保したか。(14)

令和元年度目標	アンケート調査などにみられる来館者の要望等を参考に、資料の残存状況・調査活動の進捗等をふまえて、親しみやすいテーマにも留意しながら、短期・中期の展示計画を立案する。資料の保全を優先して、展示資料の選定・展示期間の設定を行う。
自己評価	きのくに-和歌山県の文化財を基本テーマとして、記念の年や調査研究の状況により、展覧会のテーマを決定している。令和元年度は、紀伊徳川家入国400年を記念とした特別展を開催した。和歌山城下町という共通項により、初めて市立博物館との合同企画・開催とした。
課題・改善案	基本コンセプトや展示手法は、原則踏襲する。新型コロナウイルス流行の状況を見ながら、展覧会の実施やイベントの開催について十分に検討する。

##### B. 図録・パンフレット等を制作したか。(15)

令和元年度目標	特別展だけでなく、企画展においても図録や小冊子を発行できるような方策を検討する。
自己評価	特別展については、それぞれ展覧会図録を制作した。秋期特別展の図録は、和歌山市立博物館と合同で同一の図録を制作した。
課題・改善案	来館者の意見としても、企画展の図録を制作してほしいという声もあるので、制作の方式について検討を続ける。

#### ③館内小展示・出前展示

##### A. 何回企画を実施したか。要望はあったか。(16)

令和元年度目標	臨機応変に対応できる展示として、資料の保全に留意しながら、館内小展示を行う。
自己評価	文化財情報コーナー・エントランスホールで移動ケースを用いて、小展示を3回実施した。
課題・改善案	紫外線の影響があるため、資料によっては長期間の展示はできないが、機に応じた展示を行う。館蔵品による出前展示の開催要件について整理しておく。

④入館者の傾向

A. 入館者の動向(年齢層・地域・情報入手手段・満足度・感想意見等)を調査しているか。(17)

令和元年度目標	入館者の動向を把握する。アンケート回答率の増加(10～15%)をめざす。アンケートの内容とその後の対応経過を公開できるように、手法等を検討する。
自己評価	入館者アンケートの回答率は年間8.2%で、10%には達しなかった。アンケート内容の公開には至っていない。
課題・改善案	エントランスホール・ウェブ上で、結果を公開すべく準備を行う。アンケートの質問様式について、検討を行う。

4. 教育普及

博物館長による所見	学校・団体の博物館利用は年により増減のあるのは当然で、連携を継続的に探る必要がある。体験学習・ワークショップ・講演などの実施は、コロナウイルス感染の危険度が減らない限り困難があるが、オンラインなどの別の方法を検討する。3Dレプリカのさわられる展示にも感染危険という同じ問題があり、検討課題である。ボランティア活動、友の会活動は順調のように見られる。和歌山城からの集客も引きつづき進めるべきであろう。
評価部会による所見	児童・生徒・学生がどのようなメディアを利用して情報を得ているのかを十分に把握して、学校教育との連携を模索することも必要なのではないか。小中学生を対象とした「けんぱく・こどもゼミ」の活動は評価できるが、高校生や大学生を対象としたより高度な内容のレクチャーなどの実施も検討されたい。新型コロナウイルス流行下での学校との連携については、これまでとは大幅に異なった対応が必要であろう。

①学校・団体の利用

A. 学校・団体の利用回数、利用者数。(18)

令和元年度目標	年間合計65校、2,200人。
自己評価	年間合計42校、1,300人。例年に比べて、学校の団体利用が減少した。
課題・改善案	近隣の学校を中心に、例年の学校行事として来館する学校の数を増やすよう広報活動を行う。

B. 学校向けの適切な広報活動を行っているか。(19)

令和元年度目標	教員向けパンフレットを制作、配布する。様々な方法により、学校向けの広報活動を行う。学校からの要望や当館広報物の活用状況を調査する。
自己評価	年度末に教員向けパンフレットを県内全ての学校に発送した。そのほか、特別展広報物・けんぱく・こどもゼミのチラシなども発送した。
課題・改善案	教員一人一人の手元に届くような手法の検討が必要である。

②講演会・博物館講座

A. 講演会・博物館講座の回数、参加者数。(20)

令和元年度目標	年間合計5回、300人。
自己評価	年間合計6回、466人。
課題・改善案	特別展に関わるもの以外にも、県民向けの企画ができるか検討する。

B. 参加者が満足しているか。(21)

令和元年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	春期特別展では、アンケート調査を行った(回答率約40%)。大変良い・良いの合計は90%以上。
課題・改善案	すべての企画でアンケート調査を行う必要がある。

③展示解説・体験学習・ワークショップ・見学会・関連行事等

A. 行事の回数、参加者数。効果的な事業を実施しているか。(22)

令和元年度目標	当館の特色を活かした、参加型・体験型イベント実施の可能性について検討する。
自己評価	秋期特別展に関連して、和歌山市内の現地見学会を2回実施した。また、5月6日には近代美術館との合同バックヤードツアー、8月11日には文化財をさわられる体験型イベントを開催した。ミュージアム・トークは年間25回(参加者828人)実施。けんぱく・こどもゼミは連続6回(予定7回)開催した。
課題・改善案	展覧会とは直接リンクせずに、継続するようなイベントの開催を検討する。

B. 参加者が満足しているか。(23)

令和元年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	現地見学会(2回)についてアンケート調査を行い、90%前後の良い評価を得た。
課題・改善案	各イベントについて、できるだけアンケートに回答してもらえるようにする。

④県民との協業

A. ボランティア制度を導入しているか。(24)

令和元年度目標	博物館にとっても有益な、一般ボランティアの導入について検討を行う。
自己評価	和歌山大学教育学部のミュージアム・ボランティアを実施。さわれるレプリカ着彩・音声ガイドナレーションに延べ50回参加した。
課題・改善案	和歌山大学教育学部との連携は継続するが、一般ボランティア導入について、引き続き検討を行う。

B. 友の会・支援組織をつくっているか。(25)

令和元年度目標	友の会などの支援組織との協力関係を維持する。
自己評価	友の会の会員数99名。その運営に職員が関わっている。
課題・改善案	会員の高齢化が進み、会員としてのメリットが失われつつある。博物館のボランティア活動などへの参加も検討する必要がある。

C. 地域・学校・他機関等と連携した事業をおこなっているか。(26)

令和元年度目標	文化財の防災・防犯、ユニバーサルデザイン等を主眼において、地域・学校とも連携した事業を継続する。
自己評価	文化庁補助金事業の中で、文化財の防災・防犯、博物館のユニバーサルデザインを主題とした事業を行い、県立工業高校・県立盲学校・和歌山大学教育学部と連携して実施している。
課題・改善案	文化庁補助金が獲得できない場合の事業継続のあり方について、検討しておく必要がある。

D. 観光政策に対応するような方策を行っているか。(27)

令和元年度目標	和歌山城観光との連携の可能性について、観光業者や県市観光部局と協議する。
自己評価	和歌山城周辺の博物館施設5館による「まちなかミュージアム」に加盟し、入館料金の相互割引や合同のチラシによる広報を行っている。
課題・改善案	和歌山城(和歌山公園)から博物館へ人の流れができるような手法をさらに検討する。

⑤人材育成

A. 学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れているか。(28)

令和元年度目標	担当者を設定して、従来通り積極的に受け入れる。
自己評価	学芸員実習受講者5名、インターンシップ8校14名、教員研修31名。小中学生を対象とした「けんぱく・こどもゼミ」(6回)に10名参加。
課題・改善案	従来並みの活動を継続する。

5. 広報・情報発信

博物館長による所見	ポスター、チラシは県内外の必要な施設に送付されている。西洋音楽史ゼミのある大学への広報は時宜を得たものであった。新聞などメディアへの登場回数は多い。HPの利用は今後とも増加すると思われるので、定期的な更新と一層の内容充実を行う。広報・情報発信のための予算が必要である。
評価部会による所見	旧来のメディアによる情報発信も必要であるが、かなりの年齢層に受容され、情報の拡散が期待できるSNSの活用も、より充実させる必要がある。文化財に関するコンサルティングについては、県内には他にそのようなことができる機関はなく、一定の役割を担っていると評価できる。県内における新たな大学の設置にあわせて、関連するテーマを設定して企画を行いアピールすることも有効ではないかと考えられる。

①県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応しているか。件数。(29)

令和元年度目標	重要な照会事項について、その記録蓄積のシステム化を確立する。
自己評価	コンサルティング件数485件。
課題・改善案	件数の記録は行われているが、その内容の記録や整理が十分に行われていない。

## ②メディアへの情報発信

### A. 掲載件数。メディアへの広報・情報活動は行っているか。(30)

令和元年度目標	メディアに対して、情報公開のルールの範囲内で、より積極的な情報提供につとめる。
自己評価	新聞(一般紙)への掲載回数61回。
課題・改善案	取材状況に応じて、追加の情報提供などの工夫が必要である。

## ③ホームページによる広報

### A. アクセス件数・更新回数。コンテンツ・デザイン等を随時工夫しているか。(31)

令和元年度目標	年間閲覧回数80,000カウント。全体的なデザイン等の改良(外国語対応を含む)の準備に着手する。また携帯端末用のデザインについても検討する。
自己評価	カウンターの不具合により、閲覧回数の確認ができなかった。
課題・改善案	デザインのリニューアルについて、具体的に着手する必要がある。

## ④印刷物の制作

### A. ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動は行っているか。(32)

令和元年度目標	企画の内容・協力関係によって、より効果的な配布先・配布枚数等を随時検討する。
自己評価	特別展・年間の案内については、前年度並みの配布を行った。夏休み企画展も、ポスター・チラシを印刷し、とくに西洋音楽史のゼミがある大学91校へも広報した。
課題・改善案	広報の手段とその効果については、継続的に検討する必要がある。

## ⑤広報手段の検討

### A. 多様な広報手段を利用しているか。(33)

令和元年度目標	ポスター・チラシ、新聞報道、インターネット以外の新たな手法について検討する。広報のための予算の重要性について、諸方面でアピールする。
自己評価	既存の広報手段以外の有効な方法は見出せていない。
課題・改善案	SNSなどによる手法を、より充実させていく必要がある。

## 6. 組織と運営

博物館長による所見	総務課と学芸課が一体となり運営されていること、および学芸各員の自主性が重んじられるところは大いに評価できる。手薄な考古部門の人員確保が望まれる。防災マニュアルが策定され、避難誘導訓練が行われたが、今後はウイルス感染を防ぎつつ行わなければならない。入館者数についても同様で、感染を避けながら、観覧者の増加を図らなければならない。
評価部会による所見	今後続くと考えられる新型コロナウイルス流行へどのように対応していくか、県の方針の下に博物館施設共通のマニュアルを作成し、実施に移すべきである。近現代や博物館教育など、専門が手薄な部門の学芸員の配置は、館の活動をより充実させるためには必須である。館の機能を維持するために、確実に学芸員が研修を受けることは必要である。

## ①組織・人員

### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行っているか。(34)

令和元年度目標	来館者入館時の訓練を実施できるか検討する。
自己評価	防災マニュアルは策定されている。火災時の避難誘導訓練を行った。
課題・改善案	引き続き、来館者入館時の訓練を実施できるか、近代美術館とともに検討する。

### B. 館内外の研修に対して、職員が参加できる体制がとられているか。研修参加の実績。(35)

令和元年度目標	企画展示セミナー(文化庁)及び保存科学担当学芸員研修(東京文化財研究所)の既受講者数を増やす。
自己評価	企画展示セミナー(文化庁)及び保存科学担当学芸員研修(東京文化財研究所)に1名ずつ参加した。
課題・改善案	館として必要な研修に、学芸員を参加させる。

## ②利用者数

### A. 当該年度の利用者数は何人か。(36)

令和元年度目標	37,000人。前年度より増加することを最低限の目標とする。翌年度の目標設定だけでなく、中期的な目標と達成までの期間を設定する。
自己評価	35,508人。12～1月のLED照明工事のための休館と2月下旬以降の新型コロナウイルス流行の影響を受け、目標に到達することができなかった。
課題・改善案	当面の中期的目標としては50,000人とする。ただし、新型コロナウイルス流行の影響が収束する段階で、目標到達の時期をあらためて設定したい。

## ③情報公開

### A. 使命、目標、計画などの方針を公開しているか。(37)

令和元年度目標	年度上半期中に、当該年度の目標(概要)をホームページ上で公開する。
自己評価	当該年度の目標については、公開できなかった。
課題・改善案	年度上半期中に、公開できるよう準備する。

### B. 実績の検討や評価を行い、その結果を公開しているか。(38)

令和元年度目標	ホームページ上での公開の時期が、遅くならないようにする。評価の方式(点検表方式)については、見直しをする段階にさしかかっている。課題解決のためのサイクルを確立するよう検討する。
自己評価	平成30年度の公開は、3月にずれ込んだ。
課題・改善案	評価方式の見直しは、県立4博物館施設で足並みを揃える必要があり、共通の課題として検討の俎上に乗せる。

## 7. 施設・設備

博物館長による所見	ガラスの飛散防止などの工事は行われたが、対人および対列品を目的にした免震設備を総合的に考える必要がある。建物が築20年以上を経過しているので、カビの発生防止は早めに対策を講じておくのがよい。
評価部会による所見	建物、とくに展示室内の経年劣化が目立つようになってきたので、来館者の快適な環境づくりのため、その改善を早急に実施することが望ましい。

## ①施設設備の維持管理

### A. 日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われているか。(39)

令和元年度目標	バックヤード部分で、清掃が行き届いていない部分が一部みられるため、定期的な清掃が行われるような管理体制を整備する。
自己評価	電気・空調機・エレベーター・消防設備などは定期的に点検している。清掃も来館者エリアを中心に、毎日行われている。
課題・改善案	業者委託が行われていないエリアの清掃については、状況を見ながらの実施になっているので、定期的な遂行がなされるような体制を構築する必要がある。

### B. 中長期修繕計画を有し、実施しているか。(40)

令和元年度目標	展示室LED照明の改修工事(12月～1月)については、公共建築課・実施業者等と協議を重ねながら、資料の安全性と観覧者の快適性をふまえながら、慎重に実施する。
自己評価	展示室LED照明の改修工事は予定通り完了し、より細やかな照度・色温度の設定が可能になった。
課題・改善案	次に大規模改修が必要なものは、屋上及びエントランスガラス面の防水機能の更新であり、改修のための予算獲得に向けて、準備を進める必要がある。ほかに、扉類の点検・修繕も必要である。

## ②アメニティーの向上

### A. バリアフリー・ユニバーサルデザイン等の対応が取られているか。利用者への接遇の向上がみられたか。(41)

令和元年度目標	館内表示・展示解説等に、英語だけでなく中国語・韓国語の表示を加えるための検討を行う。
自己評価	博物館ホームページ上の利用案内について、英語に加えて中国語・韓国語の表記を追加した。
課題・改善案	館内の案内表示について、英語に加えて中国語・韓国語の表記が必要である。



## 8. 財源

博物館長による所見	現予算を下回らないよう努力が必要である。現在助成を受けている文化庁補助金のほかに、国の科研費・民間の助成金を有効に活用する。
評価部会による所見	経費節減に配慮しながら、現行予算額の維持を続けるとともに、外部資金の積極的な獲得、あるいは関連機関との共同研究・事業を行うなどして、活動の幅が狭まらないように工夫すべきである。また、入館料や図録などの現金收受以外に、簡便に支払いや購入ができるようなカード決済の導入が望まれる。新型コロナウイルス流行の影響による入館者数の減少はしばらく続くと思われるので、当面の予算編成の際に一定の配慮がなされるべきである。

### ①予算の確保

#### A. 入館料収入・その他の収入の確保について、当初計画に対する実際の収入達成率。(42)

令和元年度目標	博物館の使命を果たすために必要な財源の維持につとめるほか、入館料だけでなく、図録売上増加や音声ガイドの利用促進にも努力する。
自己評価	収入(歳入のみ)達成率は102.7%。継続事業とみなされる展覧会事業の一般財源には、一律にシーリングがかけられるので、徐々にその予算規模が縮小している。令和元年度より、展覧会図録をミュージアムショップの主力商品として、収入の増加をはかったが、展覧会の規模を維持するには限界があり、入館者の増加が求められる。
課題・改善案	必要な財源の確保につとめる。財源の維持のためにも、入館者数の増加をはかる。

#### B. 外部助成金等を獲得しているか。(43)

令和元年度目標	科学研究費補助金の獲得や共同研究への参加による、外部資金調達の手法を研究する。
自己評価	科学研究費補助金への申請(2件)を行った。
課題・改善案	科学研究費補助金の申請資格を維持し、申請を粘り強く継続していく。